

症状その①

- 視力が落ちた
- 少しずつ見えにくくなった
- 雪道や日の光がまぶしくなった
- 暗い所でものがみえづらい

白内障が疑われます

目の中のレンズ(水晶体)の疾患で、手術で治ります。手術しないと徐々に症状は進行します。



症状その②

- 最近よくつまずいたり転ぶ
- 足元が見えにくい
- 人とぶつかる(左右が見えにくい)
- 視力が落ちた
- 夜やうたたねの後、眼が重い(眼圧が高くなっている)
- 光の周りに虹がかかる

緑内障が疑われます

急性の緑内障は、すぐにレーザーの手術が必要です。慢性の緑内障は、進行を抑えるのが治療の目的となり、点眼治療が基本となります。



症状その③

- コミのようなものが見える(糸くず、蛙の卵、蚊、蠅)＝飛蚊症
- 光のない所で光が走る
- 視野が欠ける

網膜はく離が疑われます

網膜のはがれる前ならレーザーで予防できます。飛蚊症の段階ですぐに受診しましょう。



症状その④

- 突然、あるいは数週間の速で、片眼が見えにくくなった
- 視野がはっきり欠ける

網膜の血管閉塞 網膜血管が詰まる病気が考えられます。できるだけ早く受診し、点滴などでつまりをへらします。

網膜動脈閉塞症 急に一部や全部が真っ暗になった場合は、緊急に治療が必要です。

網膜静脈閉塞症 血管のつまり具合により、レーザーや注射などの治療が必要となります。

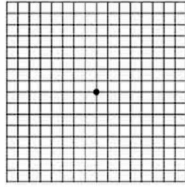
症状その⑤

- 中心部がゆがんで見える
- 中心部だけがよく見えない
- 左右で物の大きさが違って見える

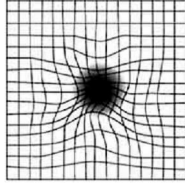
加齢黄斑変性症が疑われます

現在、よい薬がでてきて、以前より、視力の低下を防げるようになっていきます。

正常な見え方



加齢黄斑変性症の場合の見え方



© Japanese Ophthalmological Society

症状その⑥

- 突然、両眼が見えにくくなった
- 両目の視野が欠ける

脳梗塞など脳の病気が疑われます

急いで、内科・眼科・脳外科へ受診してください。

症状その⑦

- 突然、ものが大きく離れて2つに見えるようになった。(片目ずつだと1つ。両目で見ると2つに見える)
- 目の位置がずれている。離れたり寄り寄りしている



脳動脈瘤(くも膜下出血の前兆)が疑われます

糖尿病の方はその合併症急いで眼科を受診しましょう。

症状その⑧

- キラキラと輝く幾何学模様が数分間みえる
- 片方の頭が痛くなる

いわゆる片頭痛

一度、内科・脳外科で相談しましょう。

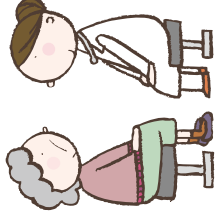


症状その⑨

- 何か視野が狭い感じがする
- まぶたが下がってきた

眼瞼下垂が疑われます

加齢により、瞼の皮膚が余ったり、瞼を挙げる筋肉の力が落ちていきます。皮膚のたるみを取り除いたり、瞼をあげる筋肉を強化する手術があります。



症状その⑩

- 瞼が腫れる
- 赤くなり、痛みもある

麦粒腫(ものもらい)が疑われます

原因は、まぶたの皮脂腺や汗腺、毛根などへの細菌感染腫れ・痛みが強いと、ときには、抗生物質が必要なものもあります。時に、高齢者では腫瘍の可能性があるので注意が必要です。



症状その⑪

- 最近、眼がチクチク・ごろごろする
- 下まぶたのまつ毛が、目に当たる



下眼瞼内反が疑われます

下まぶたの睫毛が内側にまくれ込んでいます。瞼を下に引っ張り、まつ毛を外に向けて手術をおこないます。

症状その⑫

- 最近、眼がしらの赤みが消えない
- 乱視が強くなったと言われた



翼状片が疑われます

翼状片とは、鼻側の眼球の結膜が先を角膜に向けて、三角形に角膜上に進んできたものです。瞳孔にかかると手術が必要となります。